



## 2021年3月期 第3四半期 連結決算概況と通期見通し

オリンパス株式会社 | 執行役 CFO 武田 睦史 | 2021年2月12日

(スライド1)

- オリンパスの武田でございます。
- ご多忙の中、オリンパス株式会社「2021年3月期 第3四半期決算」電話会議にご参加いただき誠に有難うございます。

## 免責事項

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

## ハイライト

### 第3四半期実績

- ✓ 売上高： 主力の内視鏡事業が好調に推移し、第3四半期はプラス成長を達成
- ✓ 営業利益： 販売が好調に推移したことに加え、引き続き販管費の管理を徹底し、第3四半期の営業利益率は約18%を達成。第2四半期からさらに改善

### 通期業績見通し

- ✓ 第3四半期実績が想定よりも好調に推移したことを踏まえ、売上・営業利益ともに上方修正
- ✓ 第4四半期は、緩やかな売上成長を見込んでおり、これまでの販管費抑制の取り組みを継続するとともに、来期以降のさらなる営業利益率改善に向けた投資・施策を実行する

(スライド3)

- スライド3ページをご覧ください。
- 2021年3月期 第3四半期決算における主なポイントです。
- 累計の連結売上高は第2四半期に続き減収幅が縮小しました。内視鏡事業が好調に推移し、第3四半期にプラス成長へと転換、他事業についても回復基調が継続したためです。
- 営業利益は、売上増に加え、新型コロナウイルスの影響による活動の制約、費用の管理を徹底したことで販管費が減少し、大幅に改善しました。
- 営業利益率は第3四半期累計で約13%、第3四半期だけで見ますと約18%となりました。
- 続いて通期業績見通しです。
- 第3四半期実績が想定よりも好調に推移したことを踏まえ、売上・営業利益ともに上方修正しました。
- 当期利益は黒字転換する見込みです。
- 第4四半期は緩やかな売上成長を見込んでおり、加えてこれまでの販管費抑制の取り組みを継続するとともに、来期以降のさらなる営業利益率改善に向けた投資・施策を実行してまいります。

# 01

## 2021年3月期 第3四半期 連結業績および事業概況

(スライド4)

- それでは、第3四半期の連結業績および事業概況について、ご説明申し上げます。

## 2021年3月期 第3四半期実績 ①連結業績概況

- 売上高：回復基調が継続。累計では減収も、主力の内視鏡事業が好調に推移し、3Qはプラス成長に転換
- 営業利益：累計では減益も、売上の回復と販管費の効率化によって、3Qは大幅な増益。3Qの営業利益率は約18%と高い水準を確保

	第3四半期累計実績 (4-12月)			参考数値		第3四半期実績 (10-12月)					
	(単位：億円)	2020年3月期	2021年3月期	前年同期比	為替影響調整後	為替+Covid-19影響調整後**	2020年3月期	2021年3月期	前年同期比	為替影響調整後	
売上高	5,613	1	5,136	▲9%	▲7%	▲390億円	1,929	1,971	1	+2%	+4%
売上総利益 (売上総利益率)	3,676 (65.5%)		3,235 (63.0%)	▲12%	▲10%	-	1,248 (64.7%)	1,275 (64.7%)		+2%	+3%
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	2,782 (49.6%)		2,502 (48.7%)	▲10%	▲9%	-	932 (48.3%)	887 (45.0%)		▲5%	▲4%
その他の収益および費用等	▲47		▲86	-	-	-	▲28	▲44		-	-
営業利益 (営業利益率)	847 (15.1%)	2	647 (12.6%)	▲24%	▲17%	▲30億円	289 (15.0%)	2	344 (17.5%)	+19%	+23%
税引前利益 (税引前利益率)	805 (14.3%)		619 (12.1%)	-	-	-	271 (14.0%)	336 (17.0%)		-	-
継続事業からの当期利益 (継続事業からの当期利益率)	655 (11.7%)		539 (10.5%)	▲116億円	-	-	245 (12.7%)	281 (14.2%)		+36億円	-
非継続事業からの当期利益 (損失)	▲64		▲523	▲459億円	-	-	▲14	▲38		▲23億円	-
当期利益	591		16	▲575億円	-	-	231	243		+12億円	-
親会社の所有者に帰属する当期利益	591		16	▲575億円	-	-	231	243		+13億円	-
EPS	45円		1円	-	-	-	-	-		-	-

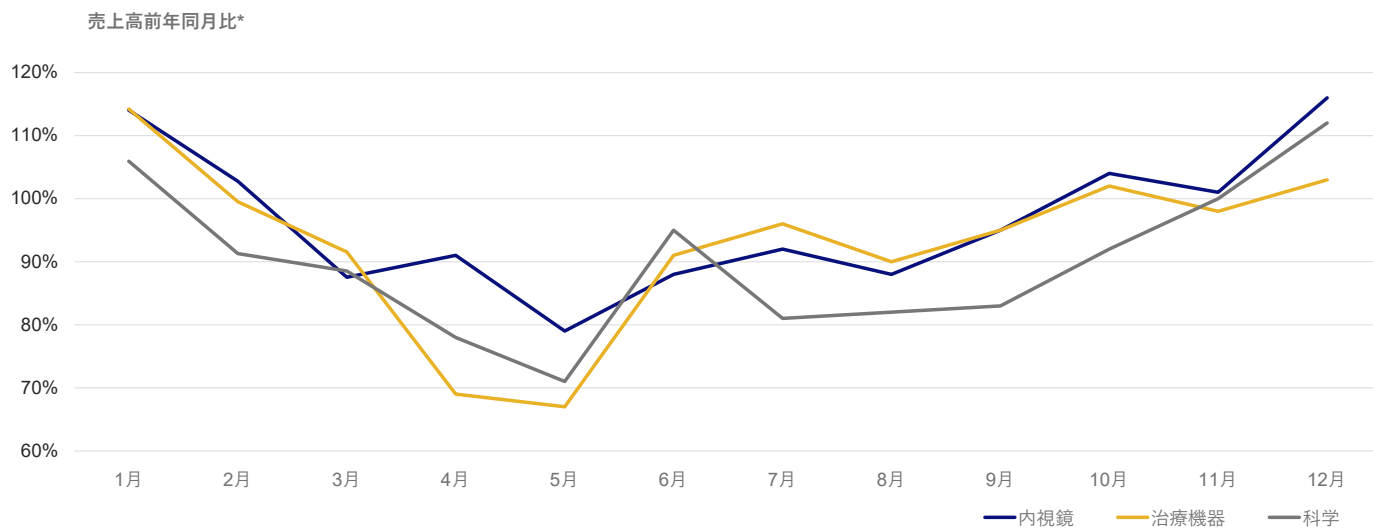
\*「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載  
 \*\*COVID-19の影響がなければ、前年実績は達成できたという前提で、為替影響、その他損益、一時要因（内視鏡・処置具の自主回収費用）を除いた前年同期と比較して算出

### (スライド5)

- スライド5ページをご覧ください。
- こちらは連結業績の概況となります。
- 第3四半期累計の連結売上高は5,136億円です。累計売上高は上期に続き減収ですが、第3四半期は増収となりました。内視鏡事業を中心に好調に推移しました。結果、為替を除く実質ベースで、第3四半期累計の前年同期比の減少率は、上期の13%から6%改善し、7%に縮小しました。
- なお、プレゼンテーションでお示している新型コロナウイルスの影響額は、新型コロナウイルスの影響がなければ、少なくとも前期実績は達成できていたという前提に立ち、為替変動、その他損益、一時要因を除いた前年同期と比較して算出しました。
- 売上総利益は3,235億円でした。
- こちらも減少率は改善しておりますが、新型コロナウイルスの影響による操業度低下に加え、内視鏡製品や処置具の自主回収費用を計上するなど原価率を押し上げる要因がいくつかありました。
- 販管費は2,502億円でした。第3四半期においては活動の制約も少なくなっていますが、引き続き厳格な管理を行い、販管費は減少しました。
- 営業利益は647億円でした。累計営業利益では依然減益ですが、第3四半期だけで見ますと、営業利益は344億円、営業利益率17.5%、為替を除く実質ベースで23%増加と大幅に増益です。
- 結果、累計営業利益率は12.6%と、上期と比べ、3%改善しました。
- 継続事業の当期利益は、539億円、116億円減少ながらも、上期と比べ、当期利益率は2.3%改善しました。
- 継続事業と非継続事業を合わせた当期利益は、映像事業の譲渡契約締結に伴う損失約500億円を計上したものの、16億円の黒字を確保できました。

## 1月-12月の状況

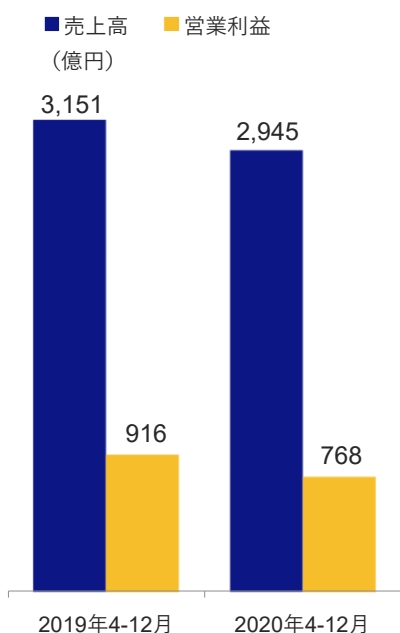
10月以降も全事業で着実に売上は回復。内視鏡事業と科学事業は12月に2桁成長  
内視鏡事業は欧州と中国で好調に推移、科学事業は中国で生物・工業用顕微鏡の売上増加が要因



### (スライド6)

- スライド6ページをご覧ください。
- 月別の売上高の状況についてご説明申し上げます。
- このグラフは、前年売上高を100%として本年1-12月の事業別売上高推移を示すものです。
- 全事業で、10月以降も着実に売上は回復しています。
- 12月は全事業で前年を上回る売上を達成しています。特に内視鏡事業と科学事業が2桁成長を実現しました。
- 内視鏡事業は、欧州と中国で好調に推移し、科学事業は、特に中国において生物、工業用ともに顕微鏡の売上が伸びました。
- 1月については、速報ベースの参考値ですが、内視鏡事業と治療機器事業は前年同月比でプラス成長となっております。
- また、科学事業は、再び前年割れとなりました。
- 事業環境は回復傾向ではあるものの、引き続き新型コロナウイルスの状況を注視し、変化に対応できるよう事業を運営してまいります。

## 2021年3月期 第3四半期実績 ②内視鏡事業



- 売上高**
  - 累計：新型コロナウイルスの影響により、減収
  - 3Q：英国、東欧が牽引する欧州が2桁成長を実現したこと、および昨年増税後の反動減があった日本も寄与し、増収
- 営業利益**
  - 累計：3Qにかけて売上が回復し、2Qから収益性が改善
  - 3Q：増収と販管費の抑制により、増益。営業利益率は約31%

第3四半期累計実績（4-12月）

単位: 億円	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	3,151	2,945	▲7%	▲5%
営業利益	916	768	▲16%	▲12%
その他の損益*	▲6	▲13	-	-
営業利益率	29.1%	26.1%		26.8%

第3四半期実績（10-12月）

	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	1,083	1,124	+4%	+6%
営業利益	318	347	+9%	+11%
その他の損益*	▲4	▲8	-	-
営業利益率	29.3%	30.9%		30.9%

ご参考

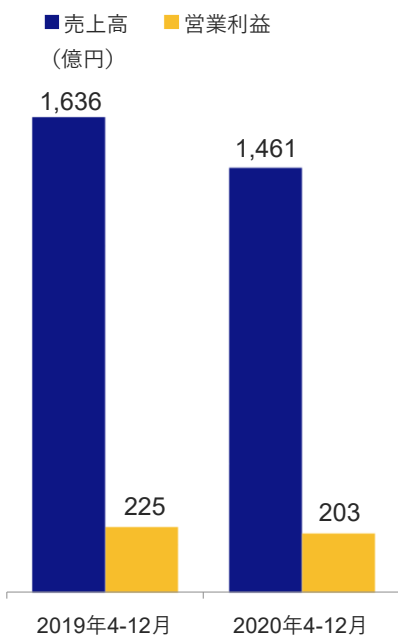
	FY2021 1Q	FY2021 2Q	FY2021 3Q
売上高前年同期比	▲17%	▲8%	+4%
為替影響調整後	▲14%	▲7%	+6%
営業利益率	18.5%	26.7%	30.9%
為替影響調整後	19.4%	28.2%	30.9%

\*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

(スライド7)

- スライド7ページをご覧ください。
- 各セグメントの概況について、ご説明いたします。
- 各セグメント、新型コロナウイルスの影響を受けながらも徐々に回復しておりますが、第3四半期は、より大きな回復がみられました。
- 従いまして、本日は10月から12月の実績を中心に説明いたします。
- まず内視鏡事業です。
- 累計の売上高は2,945億円となりました。為替を除く実質ベースで5%の減少でした。
- 一方、第3四半期は、為替を除く実質ベースで6%の成長となりました。
- 特に欧州は2桁成長を達成し、業績を牽引しています。
- 第2四半期の成長トレンドが第3四半期も継続しており、政府が医療体制を強化している英国や大型入札案件を成約した東欧で売上が伸長しました。
- また、第3四半期は、日本も好調に推移しましたが、これは前年同期に増税後の反動減があった影響によるものです。
- 累計の営業利益は、売上の回復とともに第2四半期から収益性が改善し、768億円、為替の影響を除くと、営業利益率は26.8%となりました。
- 第3四半期は、増収と販管費の抑制により、為替を除く実質ベースで11%の増益です。営業利益率は前四半期から2.7%改善し30.9%となりました。

## 2021年3月期 第3四半期実績 ③治療機器事業



### ☑ 売上高

- 累計：新型コロナウイルスの影響により、減収
- 3Q：アジア・オセアニアや日本を中心にプラス成長を実現したことに加え、症例数は回復傾向が続いており、前年並みの水準を確保

### ☑ 営業利益

- 累計：減収および処置具の自主回収費用(約20億円)を計上し、減益
- 3Q：売上の回復と販管費の抑制により大幅増益。営業利益率は約18%

第3四半期累計実績 (4-12月)

単位: 億円	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	1,636	1,461	▲11%	▲9%
営業利益	225	203	▲10%	▲4%
その他の損益*	▲11	▲7	-	-
営業利益率	13.8%	13.9%		14.6%

第3四半期実績 (10-12月)

	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	556	552	▲1%	+1%
営業利益	73	101	+38%	+40%
その他の損益*	▲4	▲3	-	-
営業利益率	13.2%	18.3%		18.4%

### ご参考

	FY2021 1Q	FY2021 2Q	FY2021 3Q
売上高前年同期比	▲27%	▲6%	▲1%
為替影響調整後	▲24%	▲6%	+1%
営業利益率	3.8%	16.6%	18.3%
為替影響調整後	4.5%	18.0%	18.4%

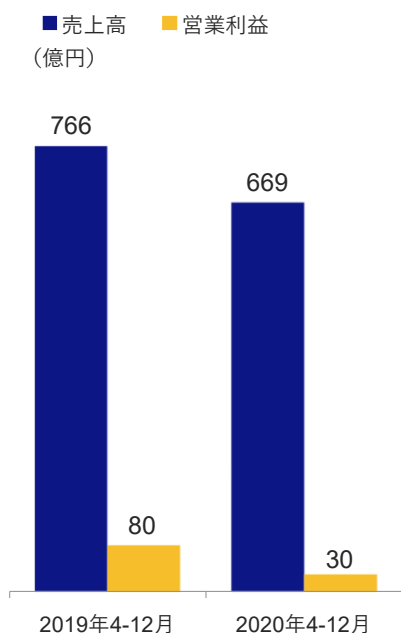
\*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

### (スライド8)

- スライド8ページをご覧ください。
- 治療機器事業です。
- 累計の売上高は1,461億円となりました。為替を除く実質ベースで9%の減少でした。
- 第3四半期は、症例数の回復傾向が続いており、欧州、日本、中国、アジア・オセアニアでプラス成長を達成し、為替を除く実質ベースで1%のプラス成長となりました。
- 累計の営業利益は、第3四半期に処置具の自主回収費用を計上したものの、減収幅の縮小および費用の減少により203億円、為替の影響を除くと、営業利益率は14.6%となりました。
- なお、前年まで計上されていたGyrus社の無形資産の償却が本年度から計上されなくなったことによる効果も販管費減少に含まれます。
- 第3四半期は、売上が前年並みまで回復し、引き続き販管費を抑制できたことにより、為替を除く実質ベースで40%の大幅増益、営業利益率は、18.4%と前年を大きく上回る結果となりました。



## 2021年3月期 第3四半期実績 ④科学事業



### ☑ 売上高

- 累計：中国の生物顕微鏡や工業用顕微鏡が好調に推移した一方、航空機産業等での設備投資意欲の減退や販売活動の制約を受け、減収
- 3Q：市況の回復に伴い、予算執行及び設備投資状況に改善が見られ、生物顕微鏡が好調に推移し、前年並みの水準

### ☑ 営業利益

- 累計：減収および生産拠点の操業度低下を要因として減益
- 3Q：販管費の効率化およびその他の損益の改善により増益

#### 第3四半期累計実績 (4-12月)

単位: 億円	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	766	669	▲13%	▲11%
営業利益	80	30	▲63%	▲54%
その他の損益*	▲5	0	-	-
営業利益率	10.5%	4.4%		5.5%

#### 第3四半期実績 (10-12月)

	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	269	266	▲1%	+1%
営業利益	26	27	+4%	+7%
その他の損益*	▲2	0	-	-
営業利益率	9.8%	10.3%		10.3%

#### ご参考

	FY2021 1Q	FY2021 2Q	FY2021 3Q
売上高前年同期比	▲21%	▲17%	▲1%
為替影響調整後	▲18%	▲17%	+1%
営業利益率	-	8.1%	10.3%
為替影響調整後	-	10.0%	10.3%

\*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

### (スライド9)

- スライド9ページをご覧ください。
- 続いて科学事業です。
- 累計の売上高は669億円、為替を除く実質ベースでは11%減少です。
- 第3四半期は、研究所、大学、病院での予算執行に改善が見られ、中国と日本で生物顕微鏡の販売が好調に推移しました。加えて、工業用顕微鏡は5G関連の電子部品や半導体市場が活発であることから堅調に推移し、為替を除く実質ベースで1%のプラス成長となりました。
- 累計の営業利益は、減収および生産拠点の操業度低下を要因として、30億円となりました。
- 第3四半期は、売上が前年並みまで回復したことに加え、販管費の効率化およびその他の損益の改善により、為替を除く実質ベースで7%の増益、営業利益率は10.3%となりました。

## 財政状態計算書

- ☑ M&Aを実施したことにより、のれんが増加
- ☑ 新型コロナウイルスの影響を鑑み、安定的な事業運営のため手元流動性を確保

(単位：億円)	2020年3月末	2020年12月末	増減額		2020年3月末	2020年12月末	増減額
流動資産	5,067	5,539	+472	流動負債	3,338	2,956	▲382
棚卸資産	1,676	1,595	▲81	社債及び借入金	810	263	▲547
売却目的で保有する資産	63	250	+188	売却目的で保有する資産に直接関連する負債	42	250	+208
非流動資産	5,090	5,513	+423	非流動負債	3,099	4,538	+1,438
有形固定資産	2,021	2,076	+55	社債及び借入金	1,999	3,332	+1,333
無形資産・その他	2,085	2,107	+22	資本	3,720	3,558	▲161
のれん	983	1,329	+346	自己資本比率	36.5%	32.1%	▲4.4pt
<b>資産合計</b>	<b>10,157</b>	<b>11,052</b>	<b>+896</b>	<b>負債及び資本合計</b>	<b>10,157</b>	<b>11,052</b>	<b>+896</b>

有利子負債：3,595（2020年3月末比+786）

### (スライド10)

- スライド10ページをご覧ください。
- 2020年12月末の財政状態です。
- Veran Medical Technologies社等の買収を実施したことにより、のれんが増加しています。
- また、新型コロナウイルスの影響を鑑み、上期に長期の社債や借入金による資金調達を行い、高い手元流動性を維持しています。
- 有利子負債の増加により、自己資本比率は前期末比で4.4ポイント減少し、32.1%となりました。

## 連結キャッシュフロー計算書

- ☑ FCF：M&Aの実施により400億円の支出があり、260億円のマイナス  
なお、定期預金400億円の預入を含むため、実質のFCFは140億円のプラス
- ☑ 財務CF：長期借入や社債発行による調達により、520億円のプラス

### 第3四半期実績（4-12月）

(単位：億円)		2020年3月期	2021年3月期	増減
継続事業 非継続事業	売上高	5,613	5,136	▲478
	営業利益	847	647	▲200
	営業利益率	15.1%	12.6%	▲2.6pt
	営業キャッシュフロー	1,057	890	▲167
	投資キャッシュフロー	▲450	▲1,150	▲700
	フリーキャッシュフロー	607	▲260	▲867
	財務キャッシュフロー	▲290	520	+809
	現金及び現金同等物期末残高	1,448	1,877	+428

\*非継続事業のキャッシュフローはAppendix (P.26) をご覧ください

### (スライド11)

- スライド11ページをご覧ください。
- キャッシュフローの状況です。
- 営業キャッシュフローは890億円となりました。ご説明したとおり回復基調が継続し、売上の好転と販管費の効率化によって、キャッシュフローも改善傾向にあります。
- 投資キャッシュフローは、複数のM&Aを実施したことにより、前年より減少しました。
- なお、投資キャッシュフローには定期預金400億円の預入を含みます。よって、実質的なフリーキャッシュフローはマイナス260億円に400億円を加算した140億円のプラスとお考えください。
- 財務キャッシュフローは、長期借入や社債発行による調達により、809億円増加、520億円となりました。
- 結果、12月末の現金及び現金同等物残は1,877億円となりました。

# 02 2021年3月期 通期業績見通し

(スライド12)

- 次に通期業績見通しについてご説明申し上げます。

## 通期見通し ①連結業績

- 1 第3四半期の好調な業績を踏まえ、売上高および営業利益を上方修正
- 2 その他の費用に社外転進支援制度実施に伴う費用約120億円を織り込む
- 3 当期利益は、85億円の黒字に転換

		2021年3月期 11月13日公表見通し		2021年3月期 最新見通し		増減	前回見通し比	2020年3月期 通期実績**
継続事業	売上高	6,970	1	7,200	+230	+3%	7,552	
	売上総利益 (売上総利益率)	4,370 (62.7%)		4,555 (63.3%)	+185	+4%	4,828 (63.9%)	
	販売費および一般管理費 (販売費および一般管理费率)	3,660 (52.5%)		3,540 (49.2%)	▲120	▲3%	3,812 (50.5%)	
	その他の収益および費用等	▲105	2	▲220	-	-	▲94	
	営業利益 (営業利益率)	605 (8.7%)	1	795 (11.0%)	+190	+31%	922 (12.2%)	
	税引前利益 (税引前利益率)	585 (8.4%)		755 (10.5%)			866 (11.5%)	
	継続事業からの当期利益	475 (6.8%)		605 (8.4%)			606 (8.0%)	
	非継続事業からの当期利益(損失)	▲530		▲520			▲89	
	当期利益	▲55	3	85			517	
	親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	▲55 (-)		85 (1.2%)			517 (6.5%)	
EPS	▲4円		7円			39円		

2021年3月期配当  
年間配当10円を予定

\*「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載 \*\* 監査前の数値です

### (スライド13)

- スライド13ページをご覧ください。
- 2021年3月期の見通しです。
- 業績見通しの前提となる想定為替レートは、1ドル105円、1ユーロ123円としております。
- 足元では新型コロナウイルスの世界的な再拡大により不透明な状況が続いておりますが、年度末にかけて緩やかな成長を見込んでいます。
- 売上高は、第3四半期の好調な業績を踏まえ、230億円上方修正し、通期で7,200億円を見込んでいます。
- 販管費は、通期では11月に公表した数値から、120億円減少と見通しを修正しました。
- 一方、第4四半期だけで見ますと、増加する見込みですが、前年と比較した場合、ほぼ同水準と見積もっております。
- 年度後半に向けて活動が活発になるという前提を置いていること、ITインフラやQA/RA機能強化等、運営基盤強化や来期以降の収益性改善に向けた投資を見込んでいます。
- その他費用には、社外転進支援制度実施に伴う費用約120億円を新たに織り込んでいます。
- 営業利益は、第3四半期の好調な業績及び販管費の抑制の継続により、通期では795億円、営業利益率約11%の着地を見込んでおります。
- 当期利益については、売上、営業利益ともに上方修正したことにより、85億円と黒字に転換する見込みです。
- 2021年3月期の配当は、2020年11月に公表した配当予想を据え置き、10円を予定しております。

## 通期見通し ②セグメント別業績

- 1** 内視鏡・科学： 第3四半期の業績を踏まえ、売上・営業利益ともに上方修正
- 2** 治療機器： 第3四半期で大幅な増益を実現をしたことを踏まえ、営業利益を上方修正
- 3** 全社消去： 販管費の抑制を行うも、社外転進支援制度実施に伴う費用を織り込み、修正

単位：億円		2021年3月期 11月13日公表見通し	2021年3月期 通期見通し	増減	前回見通し比
内視鏡	売上高	3,950	<b>1</b> 4,150	+200	+5%
	営業利益	880	1,050	+170	+19%
治療機器	売上高	2,020	2,020	0	0%
	営業利益	230	<b>2</b> 250	+20	+9%
科学	売上高	930	<b>1</b> 940	+10	+1%
	営業利益	35	40	+5	+14%
その他	売上高	70	90	+20	+29%
	営業利益	▲30	▲25	+5	+5億円
全社・消去	営業利益	▲510	<b>3</b> ▲520	▲10	▲10億円
連結合計	売上高	6,970	7,200	+230	+3%
	営業利益	605	795	+190	+31%
(参考) 非継続事業	売上高	200	210	+10	+5%
	営業利益	▲530	▲520	+10	+10億円

### (スライド14)

- スライド14ページをご覧ください。
- セグメント別の業績見通しです。
- 内視鏡事業・科学事業は、第3四半期の業績を踏まえ、売上・営業利益ともに上方修正しています。
- 治療機器事業は、第3四半期で大幅な増益を実現したことを踏まえ、営業利益を上方修正しています。
- 全社消去は、前回発表した見通しと比較して、販管費の抑制を行うも、社外転進支援制度実施に伴う費用を新たに織り込み、修正しました。
- また、その他事業も売上・営業利益ともに上方修正していますが、これは第3四半期の実績を反映したことに加え、買収したFH ORTHO社の売上を反映しています。

# 03 真のグローバル・メドテックカンパニーへの 飛躍に向けて

(スライド15)

- 最後に、真のグローバル・メドテックカンパニーへの飛躍に向けた、当社の取り組みについてご説明します。

## 企業改革の断行

# FY2021

持続的な成長に向けて、真のグローバル・メドテックカンパニーへの転換を加速させる好機



事業ポートフォリオ  
の選択と集中



固定費の  
構造改革



次世代消化器  
内視鏡 EVIS X1の  
確実な市場導入



今後の成長を  
牽引する製品  
開発への着実な  
投資継続



効率的な  
研究開発

### ☑ 着実に施策を実行しており、今後も企業改革を推し進める

- 日本産業パートナーズ株式会社に映像事業の譲渡が完了
- 次世代消化器内視鏡「EVIS X1」を欧州・アジア一部地域、日本で発売（内視鏡CADプラットフォーム「ENDO-AID」を発売）
- 医療分野の成長に向けて複数のM&Aを実施（消化器科：Arc Medical Design社、呼吸器科：Veran Medical Technologies社、整形外科：FH ORTHO社、外科：Quest Photonic Devices B.V.社）
- 社外転進支援制度の実施
- 販売体制強化のため、国内販売機能を再編

### （スライド16）

- スライド16ページをご覧ください。
- これまでの企業改革の進捗についてご説明します。
- まず、映像事業の譲渡が完了しました。今後は医療分野に経営資源を集中し、成長を加速させていきます。
- 第3四半期にM&Aを複数実施しました。いずれも戦略に沿ったもので今後の成長寄与を期待しております。詳細は次のスライド以降でご説明します。
- また、日本の従業員を対象に社外転進支援制度の実施も発表しました。
- 社外で自らの力を発揮することを希望する社員への支援を行う一方、変革を推進する人材の適所適材への採用と登用を進め、グローバル・メドテックカンパニーに相応しい体制を整えてまいります。
- また、昨年11月にご紹介の通り、販売力の強化のために国内の販売機能を統合いたします。会社分割は2021年10月1日に実施予定です。



# プロダクトパイプライン：内視鏡事業 (2021年2月12日時点)



## 経営戦略：内視鏡事業における圧倒的ポジションの強化



リユース内視鏡の競争優位性の堅持  
継続的な技術革新と販売力



シングルユース内視鏡によるポートフォリオ  
拡充  
リユース内視鏡を補完する製品ラインアッ  
プの提供

Growth driver now	Just launched / Coming soon	Beyond
<b>消化器内視鏡</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>EVIS LUCERA ELITE (日本、中国)</li> <li>EVIS EXERA III (米国、欧州)</li> </ul> <b>外科内視鏡</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>VISERA ELITE II* (米国、欧州、日本)</li> <li>VISERA ELITE (中国)</li> <li>VISERA 4K UHD (米国、欧州、日本、中国)</li> </ul>	<b>消化器内視鏡</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>EVIS X1 (欧州、日本)</li> <li>十二指腸内視鏡 TJF-Q190V (米国)</li> <li>内視鏡CADプラットフォーム ENDO-AID (欧州)</li> </ul> <b>外科内視鏡</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>VISERA ELITE II 3D/IR機能 (米国)</li> <li>VISERA ELITE II 3D機能 (中国)</li> </ul>	<b>消化器内視鏡</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>EVIS X1 (米国、中国)</li> <li>EVIS X1 3D機能</li> <li>シングルユース十二指腸内視鏡</li> </ul> <b>外科内視鏡</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>VISERA ELITE II IR機能 (中国)</li> <li>次世代外科内視鏡システム (欧州、日本)</li> </ul>

~6%

内視鏡事業  
年平均成長率\*\*

\*米国は2D機能のみ、欧州、日本は3D機能/IRを含むフルローンチ済 \*\*2020年3月期を起点に、2021年3月期から2023年3月期までのCAGR

## (スライド17)

- スライド17ページをご覧ください。
- 内視鏡事業のプロダクトパイプラインです。
- 第2四半期時点でお示した内容から変更がございます。
- 外科内視鏡の主力システム「VISERA ELITE II」について、いくつか進捗がありました。
- 2020年11月、米国でVISERA ELITE II の3Dシステムを導入し、第4四半期にはIR観察用システムの導入を予定しています。
- また、2020年11月、中国でも、VISERA ELITE II の3Dシステムを導入しました。
- なお、EVIS X1の米国での発売は2021年の前半の予定とお伝えしておりましたが、認可を得るまでに時間を要しており、スケジュールを見直しました。
- 現時点では、2022年前半での発売を目指しております。

# オランダ医療機器メーカー、Quest Photonic Devices B.V.社を買収



先進的な蛍光イメージング技術を獲得、次世代分子イメージング技術に向けた研究・開発を推進

外科イメージングの技術進化

Present

高画質・3D

蛍光イメージング

分子イメージング

- 近赤外光と蛍光色素を組み合わせ、血流に流れている蛍光薬剤が光ることにより、細胞下の血管などを可視化

VISERA ELITE II



腹腔鏡

OLYMPUS

Spectrum®



腹腔鏡・開腹

Quest medical imaging

Quest社の強み

- 先進的な蛍光イメージング技術
- 様々なバイオテクノロジー企業と次世代分子イメージング技術を共同研究・開発中

- 蛍光薬剤と特定の抗体を組み合わせ、薬剤が特定の臓器などに集積する性質を活用することにより、がん細胞を可視化



研究・開発

(スライド18)

- スライド18ページをご覧ください。
- 外科内視鏡分野で新たな機会を追求するため、当社は、2月10日にオランダの医療機器メーカー、Quest Photonic Devices B.V.社の株式取得が完了し、完全子会社化しました。
- 外科イメージング領域では、技術進歩が進んでおり、近年、蛍光イメージング市場が拡大しています。
- 蛍光イメージングとは、近赤外光と蛍光色素を組み合わせ、特定の波長の光を当てることで、血流に流れている蛍光色素を光らせ、細胞下の血管等を可視化する技術です。
- 蛍光イメージングは再建手術及び低侵襲手術への需要の高まりから、開腹・腹腔鏡手術ともに市場が拡大しており、2018年から2027年までの市場の年平均成長率は12%と、大幅な成長が期待できる市場と見られています。
- Quest社の買収により、蛍光ガイド手術用のイメージングシステム「Spectrum」がラインアップに加わり、当社にはなかった開腹手術用の機器をそろえることが可能になります。
- 次に、Quest社の有する先進的な蛍光イメージング技術やノウハウを当社の製品開発に活用することができます。
- さらに、Quest社は、分子イメージング技術という新しい技術の実現に向けて、様々なバイオテクノロジー企業と共同研究や開発を積極的に推進しており、将来的な技術獲得への足掛かりとなります。
- 今後も、これまで自社が培ってきた内視鏡のイメージング技術に加え、蛍光イメージングなどを活用し、より正確で安全な手術をサポートできる機器を提供していきます。

# プロダクトパイプライン：治療機器事業 (2021年2月12日時点)



## 経営戦略：治療機器事業への注力と拡大



### 消化器科

既存の製品領域において製品ラインアップを拡充し、関連する領域での成長拡大



### 泌尿器科

前立腺肥大の分野で業界をリードしつつ、製品ラインアップを拡充し、結石処置における競争力を向上



### 呼吸器科

BLVR\*市場をリードしつつ、肺がんの早期診断、処置の分野で成長拡大

### Growth driver now

#### 消化器科

- Visiglide
- ESD Knife
- EZ Clip / QuickClip Pro
- EndoJaw

#### 泌尿器科

- 前立腺肥大症治療用切除デバイス

#### 呼吸器科

- ViziShot
- スパイレーションバルブシステム

### Just launched / Coming soon

#### 消化器科

- 5製品 (米国)
- 5製品 (欧州)
- 10製品 (日本)
- 5製品 (中国)

#### 泌尿器科

- 前立腺肥大症低侵襲治療デバイス iMind (米国、欧州)
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System (米国、欧州)

#### 呼吸器科

- 電磁ナビゲーションシステム (米国)
- シングルユース気管支鏡 (米国)

### Beyond

#### 消化器科

- シングルユース胆道鏡

#### 泌尿器科

- シングルユース尿管鏡

#### 呼吸器科

- 電磁ナビゲーションシステム (欧州)
- シングルユース気管支鏡

~8%

治療機器事業  
年平均成長率\*\*

\*Bronchoscopic Lung Volume Reduction \*\*2020年3月期を起点に、2021年3月期から2023年3月期までのCAGR

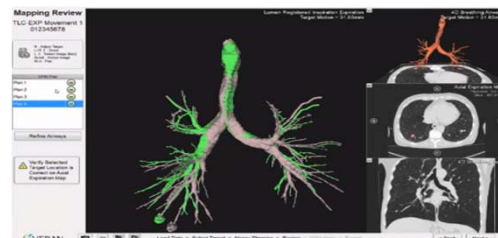
(スライド19)

- スライド19ページをご覧ください。
- 次に治療機器事業のパイプラインです。
- 第2四半期からの変更点としては、12月29日に買収が完了したVeran Medical Technologies社の製品である電磁ナビゲーションシステム及びシングルユース気管支鏡がポートフォリオに加わっています。
- これらの製品やスパイレーションバルブシステム等により、呼吸器疾患の早期診断、低侵襲治療のポートフォリオを拡大してまいります。



### Veran Medical Technologies社の買収により呼吸器科の製品ラインナップを強化

- ☑ オリンパスの呼吸器科製品とVMT社の電磁ナビゲーションシステムを組み合わせることで、早期肺がんの診断により一層貢献



電磁ナビゲーションシステム

- ☑ オリンパスはVMT社の買収により、VMT社がVathin社と締結していたシングルユース気管支鏡に関する5年間の契約（米国における販売権およびシングルユース気管支鏡の共同開発）を獲得



(スライド20)

- スライド20ページをご覧ください。
- 内視鏡事業同様、治療器事業でも買収によるパイプラインの充実をはかりました。
- 2020年12月、呼吸器インターベンション分野に注力する米国のVeran Medical Technologies社の買収を完了いたしました。
- オリンパスは、呼吸器科の領域において、内視鏡市場での確固たる地位を活用し、製品ポートフォリオの拡充により肺がんの早期診断、治療に貢献することを目指しています。
- 肺がんの早期発見においては、昨今、低線量CT検査によるスクリーニングが広まってきており、肺の末梢にある小型の病変が見つかるようになってきています。
- CTで見つけた病変を確定診断するためには、目的部位まで処置具を挿入し組織や細胞を採取する必要がありますが、肺の末梢領域までに処置具を到達させるナビゲーション技術に強みを持っているのがVeran Medical Technologies社です。
- この電磁ナビゲーションシステムは、気管支の3D画像を見ながら、細く枝分かれした気管支末梢部への気管支鏡や処置具の挿入を支援するシステムであり、当社が持つ気管支鏡とのシナジーが期待できます。
- また、同社は、2020年11月にHunan Vathin Medical社（フナン・ベイシン・メディカル）と米国でのシングルユース内視鏡の販売について改定契約を結んでおります。
- これにより、米国において、電磁ナビゲーションシステムとともに使用するHunan Vathin Medical社の気管支末梢部へのシングルユース気管支鏡のラインナップが加わり、呼吸器科のポートフォリオがさらに拡充されました。

## リユース内視鏡とシングルユース内視鏡に対する基本認識

オリンパスは、内視鏡のマーケットリーダーとして、リユース内視鏡およびシングルユース内視鏡の総合的なポートフォリオを構築し、症例に応じて、すべての患者さんに最適なソリューションを提供



観察性能や、身体の中への（大腸等への）挿入や治療における操作性などへの高い要求性能とコストがバランスしているリユース内視鏡へのニーズは引き続き高い



シングルユース内視鏡は、シングルユース内視鏡ならではの価値がある領域で成長が見込まれているこの領域に、シングルユース内視鏡のラインナップを追加

- |  |             |
|--|-------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 感染管理に対する要求 | ➤ 十二指腸鏡     |
| <input checked="" type="checkbox"/> 耐久性に対する要求  | ➤ 胆道鏡 / 尿管鏡 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 症例特有の需要    | ➤ 気管支鏡      |

(スライド21)

- スライド21ページをご覧ください。
- 当社のリユース内視鏡とシングルユース内視鏡に対する考え方について改めてご説明いたします。
- リユース内視鏡は、高度な観察性能、身体の中への挿入性および治療における操作性などの機能とコストのバランスが取れており、引き続き高いニーズがあると考えています。
- 一方、シングルユース内視鏡は、シングルユース内視鏡の価値が認められ、ニーズが顕在化している領域において、成長を見込んでいます。
- 具体的には、エマージェンシールームなど緊急や簡便な検査準備といった症例特有の需要がある領域、内視鏡の細さと耐久性の両立が求められる領域、より高度な感染管理が求められる領域では、シングルユース内視鏡ならではの価値を提供できると認識しています。
- これらの領域では、オリンパスとしてシングルユース内視鏡をラインナップに加えることにより、内視鏡医療のあらゆるシーンに対応してまいります。
- 今後も内視鏡のマーケットリーダーとして、リユース内視鏡およびシングルユース内視鏡の総合的なポートフォリオを構築し、症例に応じてすべての患者さんに最適なソリューションを提供してまいります。
- 私からの説明は以上です。

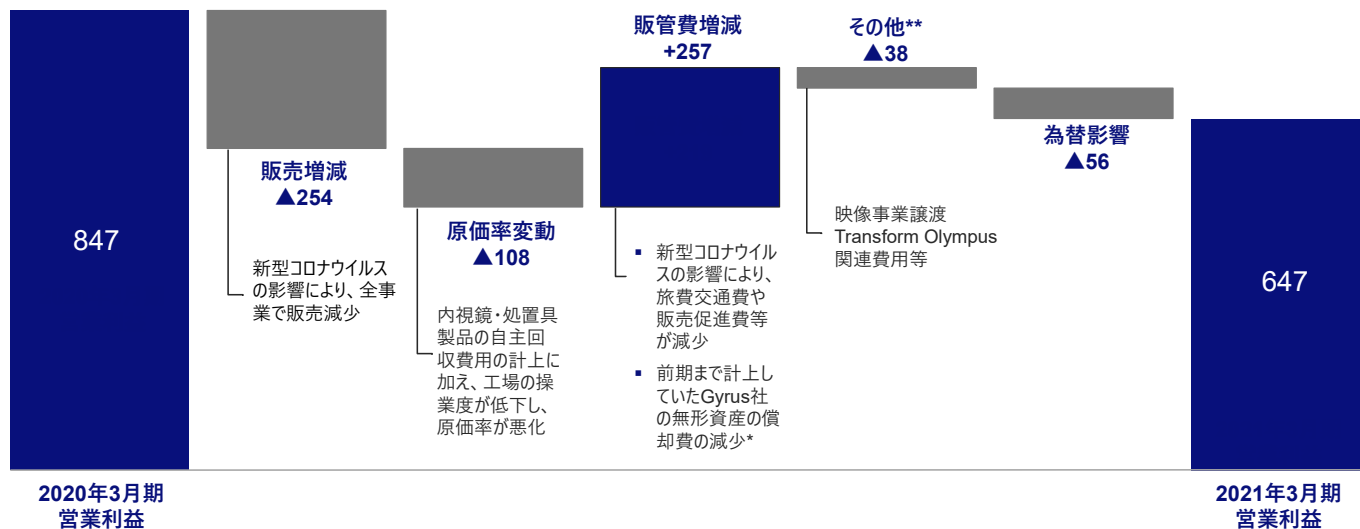
**OLYMPUS**

# 04 Appendix

---

## 参考資料：2021年3月期 第3四半期実績 ①連結営業利益増減要因

第3四半期累計実績（4-12月）



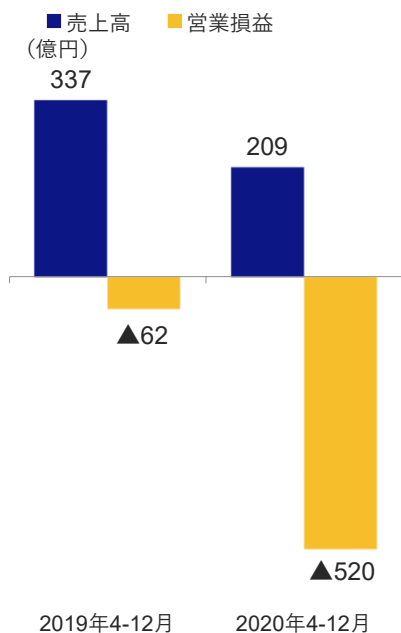
(単位：億円) \*Gyrus社の無形資産の償却はFY2020に終了 \*\*その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています



## 参考資料：2021年3月期 第3四半期実績 セグメント別概況

第3四半期累計実績（4-12月）					第3四半期実績（10-12月）				
単位：億円	2020年3月期	2021年3月期	前年同期比	為替影響調整後	2020年3月期	2021年3月期	前年同期比	為替影響調整後	
内視鏡	売上高	3,151	2,945	▲7%	▲5%	1,083	1,124	+4%	+6%
	営業利益	916	768	▲16%	▲12%	318	347	+9%	+11%
治療機器	売上高	1,636	1,461	▲11%	▲9%	556	552	▲1%	+1%
	営業利益	225	203	▲10%	▲4%	73	101	+38%	+40%
科学	売上高	766	669	▲13%	▲11%	269	266	▲1%	+1%
	営業利益	80	30	▲63%	▲54%	26	27	+4%	+7%
その他	売上高	60	60	0%	0%	21	28	+30%	+30%
	営業利益	▲19	▲15	+4億円	+4億円	▲6	▲6	0億円	0億円
全社・消去	営業損益	▲355	▲338	+17億円	+17億円	▲123	▲125	▲3億円	▲2億円
連結合計	売上高	5,613	5,136	▲9%	▲7%	1,929	1,971	+2%	+4%
	営業利益	847	647	▲24%	▲17%	289	344	+19%	+23%
(参考) 非継続事業	売上高	337	209	▲38%	▲38%	129	72	▲45%	▲45%
	営業損益	▲62	▲520	▲458億円	▲459億円	▲13	▲35	▲22億円	▲22億円

# 参考資料：2021年3月期 第3四半期実績 非継続事業 (映像事業)



**売上高** 新型コロナウイルスの影響を大きく受けて、減収

**営業損益** 譲渡関連費用447億円により、営業損失を計上

単位: 億円	第3四半期累計実績 (4-12月)				第3四半期実績 (10-12月)			
	FY2020	FY2021	前年 同期比	為替影響 調整後	FY2020	FY2021	前年 同期比	為替影響 調整後
売上高	337	209	▲38%	▲38%	129	72	▲45%	▲45%
営業損益	▲62	▲520	▲458億円	▲459億円	▲13	▲35	▲22億円	▲22億円
その他の損益*	▲14	▲447	-	-	▲3	▲8	-	-
営業利益率	-	-	-	-	-	-	-	-

\*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

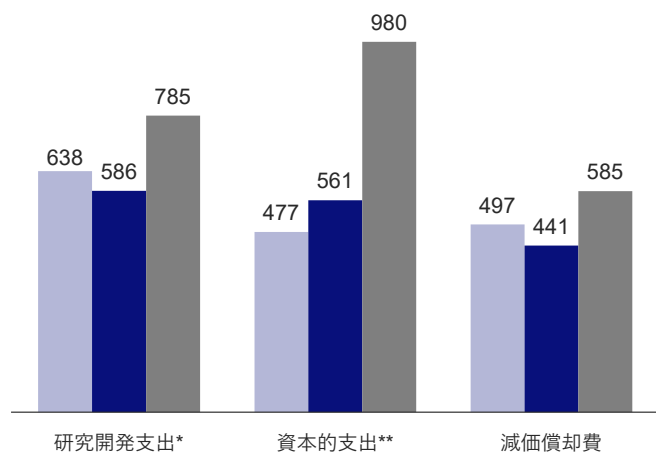
### ご参考

	非継続事業のキャッシュフロー 第3四半期実績 (4-12月)			増減
	FY2021 1Q	FY2021 2Q	FY2021 3Q	
売上高前年同期比	▲41%	▲26%	▲45%	
為替影響調整後	▲39%	▲26%	▲45%	
営業キャッシュフロー	▲34	▲30	▲30	+5
投資キャッシュフロー	▲20	▲9	▲9	+12
財務キャッシュフロー	▲0	▲1	▲1	▲0

## 参考資料：投資等

### 第3四半期累計実績（4-12月）および通期見通し

(億円) ■ FY20203Q累計 ■ FY20213Q累計 ■ FY2021通期見通し



(単位：億円)	FY2020 3Q累計	FY2021 3Q累計
研究開発支出* (a)	638	586
開発費資産化 (b)	144	116
損益計算書上における 研究開発費 (a-b)	495	470

(単位：億円)	FY2020 3Q累計	FY2021 3Q累計
償却費	51	64
	2020年9月末	2020年12月末
開発資産残高	513	531

\*研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています

\*\*資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています

また、2020年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用权資産が含まれています  
(FY20203Q累計：69億円、FY20213Q累計：178億円、FY2021通期見通し：370億円)